

数学オリンピック財団から 5

財団理事長 小林一章

今年の第49回IMOは7月15日から22日までスペインのマドリードで開催されました。それに先立って伊藤雄二氏を団長とする団長団4名が7月10日に出発しました。これは開会式より前に開かれるジュリーミーティングで開催国が選んだ30題の候補問題から最終出題問題6題を選定する事と中間点配分案を作成するためです。またAPMO（アジア太平洋数学オリンピック）の年次総会も、このIMOのジュリーミーティングの終わり頃に開かれ、次回、次々回の開催国などがここで決められます。日本は近い将来APMOの開催国となることが期待されています。開催国は連続2年は開催する事が決められています。

また鈴木晋一副団長に引率された選手6名が14日に日本を出発しました。15日は開会式、16日、17日の両日にコンテストが行われました。勿論団長団は問題を知っていますし、副団長は選手を引き連れていますのでコンテストが終わるまで連絡を取り合う事は厳禁です。団長団を中心にして選手達の答案を採点し、次にコーディネーションに臨みます。これは各国語で問題を解いた答案を間に置いて各国の採点者と開催国のコーディネーターが答案の点数を確定させるための作業です。開催国のコーディネーターは多くの場合各国語（日本なら日本語）を理解出来るわけではありませんが答案の節目の式などをチェックして零点、中間点、満点などを決めるわけです。これを各国採点者と協議して選手達の点数を確定するわけですから、結構大変な作業です。今年は昨年よりは問題が易しかったようで、満点者が3名出て（昨年は0）一寸したミスが結構大きく成績に影響を与えました。成績は次の通りです。

副島 真	筑波大学附属駒場高校	2年	金メダル
関 典史	灘高校	3年	金メダル
今村志郎	灘高校	2年	銀メダル
保坂和宏	開成高校	2年	銀メダル
浅野知紘	灘高校	3年	銀メダル
滝間太基	筑波大学附属駒場高校	2年	銅メダル

全員メダリスト、得点も昨年を上まったのですが国別順位は昨年の6位タイに比べ11位でした。因みに国別順位上位10国は、

1. 中国
2. ロシア
3. アメリカ
4. 韓国
5. イラン
6. タイ
7. 北朝鮮
8. トルコ
9. 台湾
10. ハンガリー

でした。どうも日本は初等幾何が弱いらしく6題目の問題（幾何）が6人の合計得点が1点、3題目（幾何）も0点の選手が半数いました。これは反省すべき点かなと思います。これら

の作業中、選手達は開催国の主催によるエクスカージョンに参加してその国の文化、自然に触れることとなります。今年はマドリードがコンテスト会場として、プラド美術館見学やトレドに行ったそうです。

次に8月24日から8月30日の間、山梨県北杜市清里のヴィラ千ヶ滝で夏季セミナーが開催されました。ここは昨年の夏季セミナーを行ったところと同じ場所です。これの参加資格は2008年3月の春合宿参加者の内の希望者、一般応募者から論文審査で認められた生徒、女子卒の推薦者で、おのおの13名、18名、5名の合計36名です。チューターとして過去の日本代表者を中心とした16名、財団から3名参加して総合計55名の大人数が参加して行われました。更に3人の大学の先生が講師として、招待され、講義をしていただきました。26日、27日、28日の午前中は3人の先生方による講義、その他の時間は各グループに分かれ、チューターがついてゼミを行いました。最終日の前日29日は各グループの成果発表を行いました。春合宿はIMOの日本代表を決める目的があるため、コンテストの他の講義、演習もIMO向けの内容で行われますが、夏季セミナーはIMOを目標とするのではなく、数学の才能が豊かで、数学大好きな少年少女たちに少し上級の数学に触れて貰ってますます数学に魅力を感じてほしいと言う目的で行われます。皆、上級のテキストに苦勞しながらも楽しそうに議論合っていました。将来の日本の自然科学を背負ってくれる人材に育ってくれたらと思います。ただし今年8月下旬の天候は大変不順で清里から一日も八ヶ岳が見えずバーベキュー大会は何とか出来たのですが、ついに花火大会は中止となってしまいました。

最後に、今年度の新規事業として今までJMOだけに行われてきた予選、本選形式をJJMO（ジュニア）にも拡大し、少数ですがJJMO本選の成績優秀者から直接春合宿に行ける道も開きました。これは今年（2007年度）から実施したJJMOの地区別表彰と合わせ底辺拡大の事業の一環です。